



スターバックス日本上陸 25 周年 さらなる成長への重要な取り組みを発表

人、地球環境、地域を中心にとらえた事業強化で、2024 年末までに 2,000 店舗のつながり創出を目指す

- ・ 個人の能力や可能性を最大化する新たなキャリア制度の導入で、パートナー(従業員)が自律的に多様なキャリアを追求できる体制へ
- ・ 環境に配慮した事業運営をさらに前へ。環境省が管理する皇居外苑 和田倉噴水公園に、サステナビリティに重点をおいた新店舗「皇居外苑 和田倉噴水公園店」を 2021 年 12 月に開業
- ・ 2030 年までに廃棄物を 50%削減するグローバル目標追求のため、脱使い捨てプラスチックや廃棄物削減をさらに強化。カップのシェアリングプログラムやフードロス等への取り組み着手。フラペチーノ®の紙ストロー提供でさらなるプラスチック削減へ
- ・ 地域とのつながりの一層強化に向けた店舗増へ。年間 100 店の新規出店ペースを継続し、2024 年末までに 2,000 店舗を目指す

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社(本社所在地:東京都品川区、代表取締役最高経営責任者(GEO):水口貴文)は、日本上陸 25 周年を迎えます。2021 年 6 月 21 日(月)、日本市場における、さらなるビジネス成長に向けて、人、地球環境、地域へのポジティブな貢献を追求した、重点取り組みを発表いたしました。1996 年、北米以外の海外初のマーケットとして、日本第一号店を東京・銀座に開業して以来、スターバックス コーヒー ジャパンは、地域に愛される第三の居場所(サードプレイス)の実現を目指し、一杯のコーヒーを通じて、人と人とのつながりの瞬間を重ねることで成長を続けてきました。存在を一層必要とされるブランドとして成長するために、店舗のある地域・地元とのつながりをさらに深め、人と地球環境においてより良い状態の在り方を追求していきます。この在り方を実現するために、年間 100 店の新規出店ペースを継続し、日本全国での店舗数は 2024 年末までに 2,000 店を目指します。



[25 周年記念ムービー「#スターバックス 2525 リレー」](#)

次なる成長に向けて、スターバックス コーヒー カンパニー(本社:米国シアトル)の社長兼最高経営責任者(GEO)であるケビン・ジョンソンは、今年 3 月、25 周年に際し以下のように述べています。「北米以外におけるスターバックス初の海

外市場として、日本は、コーヒーとつながりの力を通じ、スターバックスのミッション&バリューズを世界中に広げるうえで極めて重要な役割を果たしてきました。日本全国のスターバックスパートナーの情熱と、スターバックス リザーブ® ロースタリー 東京で絶え間なく続くイノベーションは、世界規模へと広がった私共のビジネスを刺激し、高め続けています。パートナーが築き上げたこれまでの目覚ましい功績を誇りに思うとともに、次の 25 年間でも、日本市場においてリーダーシップを発揮し、さらなる成長につながることを楽しみにしています。」

日本市場の成長を担う、スターバックス コーヒー ジャパンの代表取締役最高経営責任者(GEO)、水口貴文は、以下のようにコメントしました。「お客様の長年にわたるご愛顧に、改めて感謝申し上げます。25 年前に 1 店舗から始まり、現在は直営が 9 割以上を占める 1,600 店舗以上に、パートナー数も 4 万人の社会的責任のあるブランドに成長しました。これからも日本全国の地域社会に心豊かなつながりを生み出していけるよう、スターバックスのミッション&バリューズをベースに、お客様の期待を常に超えるスターバックス体験の提供を追求し、情熱溢れるパートナーと意義のある成長へとつながるチャレンジを続けてまいります。」

■ パートナー個人の能力や強み、未来への可能性を最大化する新キャリア制度を導入。多様性あふれる Best Place to Work(最高の職場)の実現を目指す

スターバックスにとって、多様でエンゲージメントの高いパートナーは最も大切なブランドのコアです。Best Place to Work(最高の職場)を目指す考えの下、多様化するライフスタイルやライフステージの変化に応じて、パートナー一人ひとりが能力や強みを生かし、自らオーナーシップをもってキャリア形成が実現できるよう、新たなキャリア制度へ 2022 年度からアップデートし、People Positive な企業の在り方を追求します。



① それぞれの地域・地元でキャリアを追求できる全国共通の制度内容へ刷新

新たな正社員対象のキャリアパスは、リモートワークという機会点により、転居を伴わずとも、愛着と知見のある地元に着しながら、パートナー自らがキャリアを追求することができる、特に外食業界において革新的な制度です。2014 年からベースとなっていた目指すキャリアと転勤の有無に違いのある、2 つのキャリアパス:グリーンエプロンアンバサダー(全国型)とグリーンエプロンエキスパート(コミュニティ型)を廃止し、全国統一のキャリアパスに刷新します。また、地域による給与面での差をなくし、全国同一の給与体系へと移行いたします。その結果として、約 3,500 名の店舗で働く社員パートナーとその家族の充足したライフスタイルの実現と、地域経済の活性化にもつながる中長期的な雇用創出への貢献を期待します。

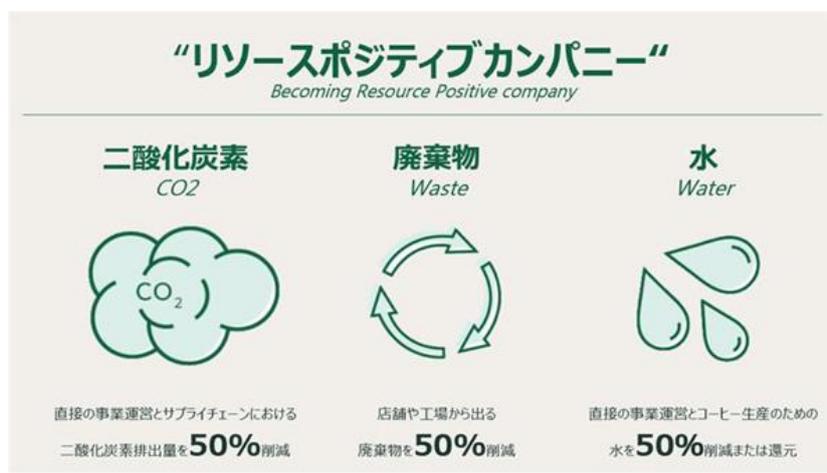
② 地元での人の採用・育成・活躍・成長に重点。多様なパートナーの個の伸び行く成長を支える企業体へ

年齢、性別、障がいの有無などに関係なく、多様なパートナーが全国各地で活躍できる職場を目指し、スターバックスでは、地域コミュニティにおける採用と育成に注力してまいります。2022 年春より、地域をよく知る若者世代の代表である高校生のアルバイト採用および、高等学校卒業見込み者の正社員登用(2022 年 4 月入社)をスターバックス コーヒー ジャパン創

業以降初めて、一部地域にてスタートいたします。これまでスターバックスでは、のべ1万件を超える中学生の職場体験や3,500人以上の高校生が参加したユースリーダーシッププログラムなどを通じ、ミッション&バリューズに基づき自ら考え行動する、主体性を育むスターバックス独自の人材育成方法を共有してきました。その門戸をさらに広げ、中長期的なキャリアのつながりを若者世代と創ることで、将来、その土地のリーダーとして活躍する仲間を育み、そのパートナーを通じた地元色溢れる顧客体験の提供につなげてまいります。また、来年2022年1月1日より、社員パートナーの定年年齢の引き上げを行います。人と共にブランド成長する「ピープル」が中心の企業であるスターバックスは、個性あふれる多様なパートナーが主体的に人生設計し、イキイキと生きるための成長機会をこれまで以上に、積極的に提供をしております。

■リソースポジティブカンパニーとして存在するブランドへ

スターバックスのサステナビリティへの歩みは、創業当初より重要な取り組みとして、大胆な志と包括的なアプローチによって進められてきました。昨年にはグローバルより、「リソースポジティブカンパニー」を目指すという持続可能な未来へ向けたコミットメントと、2030年までにCO₂(二酸化炭素)の排出量、廃棄物の排出量、水の使用量を半減させる環境目標を正式に発表しました。日本においても、このコミットメントに基づき、様々な環境施策を強化継続してまいります。



- ① 2030年までに廃棄物を50%削減するグローバル目標追求のため、**使い捨てプラスチックの削減をさらに強化**
- **繰り返し使えるカップのシェアリングプログラムの実証実験を、丸の内エリアの店舗で2021年秋よりスタート。**プラスチックカップを含む使い捨て容器の代わりに、リユースカップでドリンクを提供し、参加店舗での回収、委託先での洗浄を通して、リユースプラットフォームを構築します。地球資源に過度に頼らないサービスの在り方を追求し、使い捨てカップの使用量の削減につなげます。
 - **9月より順次フラペチーノ®も紙ストローに切り替え。**2021年9月より順次、フラペチーノ®においても、FSC®認証*1紙ストローでの提供を始めてまいります。これにより、店舗での使い捨てストローはすべて*2紙製に変更となり、引き続き、23品目のアイスビバレッジはペーパーカップとストロー不要のリッドにて提供をいたします。

*1 スターバックスはFSC®ライセンスナンバー、FSC® N002500を取得しています

*2 お子様用の曲がるストローやチルドカップ付属のストローを除く

② サステナビリティに重点をおいた新店舗「皇居外苑 和田倉噴水公園店」を2021年12月に開業

環境省が管理する国民公園の一つである皇居外苑の和田倉噴水公園内に立地する和田倉休憩所に、2021年12月、新たな店舗をオープンいたします。



皇居外苑 和田倉休憩所「画像提供:財団法人国民公園協会」

この店舗は、環境負荷低減に重きをおいたデザインで、環境目標にアプローチする様々な設計面、運営面でのアクションを先駆的に取り入れます。例えば、自律分散型水循環システムを開発するWOTA株式会社と協業して、店内でお客様が使用するための手洗い水の循環利用を行います。また、国産木材の積極採用や、店内利用時にはリユース可能なグラスやマグでのドリンク提供を基本とし、カップのシェアリングプログラムのテスト導入や、給水スポットの設置などを行う予定です。なお、12月のグランドオープンに先駆け、7月下旬より、期間限定ストアがオープン予定です。



③ リデュースアクションや資源循環の取り組みを加速し、廃棄物を2030年までに50%削減目指す

- 8月23日(月)より、全国の店舗(一部店舗を除く)でフードロス削減のための新プログラムをスタートします。2021年3月に実施した約90店舗におけるトライアルで得た知見を基に、適切な発注と、より積極的な廃棄削減を目指すため、夜間の商品販売価格の値引きを実施いたします。これによりスターバックスの食品廃棄物の約15%を占める期限切れフードの廃棄量の削減を目指します。
- 6月23日(水)から8月31日(火)まで、お客様の不用となったスターバックスのプラスチック製のタンブラー等のドリンクウェアを全国の約500店舗で回収し、リサイクルにつなげる「タンブラー回収プログラム」を実施いたします。回収したタンブラーはリサイクルして、新たな製品・資材の原料として活用し、商品は来年にもスターバックス店舗で販売する予定です。
- 以前よりスターバックスが継続してきたサステナブルアクションの一つ「コーヒー豆かすリサイクルループ」の取り組みがさらに前進します。スターバックスの店舗から出る廃棄物で最も多いのがコーヒー(豆かす)です。1店舗あたり、毎日約16kg排出されるコーヒー豆のかすを、たい肥としてリサイクル。このたい肥で育てたニンジンを使用した「キャロットケーキ」を6月23日(水)からスターバックスのオンラインストアにて販売いたします。これらの取り組みを通じて、豆かすのリサイクル率をこれから3年間で、23%から50%に上げることを目指します。

■地域・地元とのつながりを強め、ビジネス成長

コミュニティへの貢献は私たちスターバックスが変わらず重視する柱の一つです。47 都道府県すべてに店舗を構え 1,600 を超える規模になった今も、ミッションに基づき、創業当時から、地域との関係性を大切に、一店舗一店舗が地域・地元とつながりを築き上げてきました。ますます店舗と地域とのつながりを強固にした個性あふれる 2,000 店舗を目指し、地域社会・経済の活性化につなげてまいります。また、地元の皆さまとのつながりを通じた、ユニークな商品やサービスも拡充してまいります。

◆スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社 <https://www.starbucks.co.jp/>

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社は、1996 年に東京・銀座に日本第 1 号店を開業。現在、全世界 83 か国で 33,000 店舗以上、日本全国 47 都道府県において 1,637 店舗（2021 年 3 月末時点、ライセンス店舗を含む）のコーヒーストアを展開しております。「人々の心を豊かで活力あるものにするために—ひとりのお客様、一杯のコーヒー、そしてひとつのコミュニティから」をミッションに掲げ、約 4 万人のパートナー（従業員）が、一杯のコーヒーを通じて、人と人とのつながりと心あたたまるひとときを提供しております。2019 年 2 月 28 日には、世界 5 拠点目となる「スターバックス リザーブ® ロースタリー 東京」をオープンしました。

お客様からのお問い合わせ先 0120-336-388

※間違い電話が多くなっておりますのでお気を付けください
(10:00-18:00 年中無休、国際電話、IP 電話からは 03-5745-5890)